

家計調査 平成19年7～9月期平均結果の概況

- 家計収支編(二人以上の世帯) -

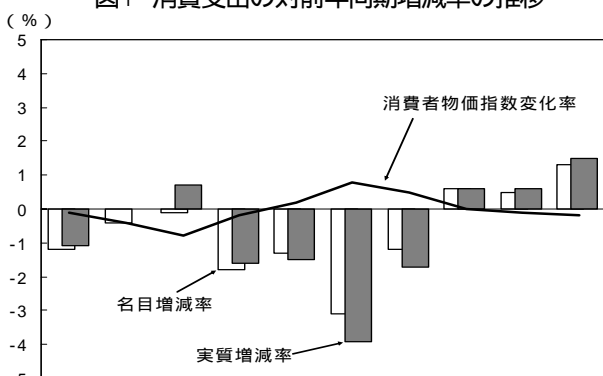
家計収支の概要

1 消費支出は3期連続の実質増加

平成19年7～9月期の二人以上の世帯(平均世帯人員3.14人、世帯主の平均年齢55.8歳)の消費支出は、1世帯当たり1か月平均289,705円で、前年同期に比べ名目1.3%の増加、実質1.5%の増加となった。

最近の消費支出の動きを対前年同期比でみると、平成18年1～3月期から18年10～12月期まで4期連続で減少していたが、19年1～3月期以降は3期連続して増加している(図1)。

図1 消費支出の対前年同期増減率の推移



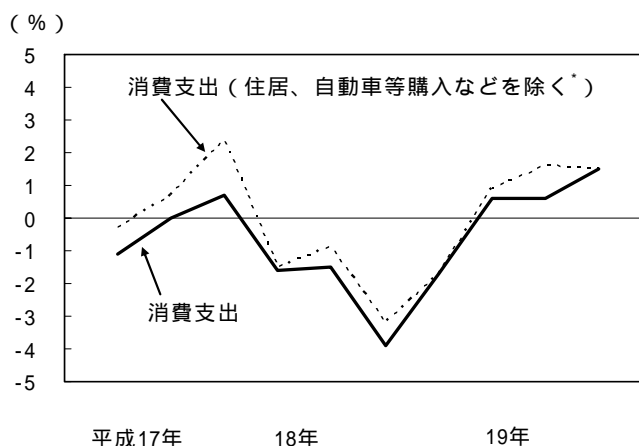
平成17年 18年 19年
 (注) は1～3月期、 は4～6月期、 は7～9月期、
 は10～12月期を表す。以下同じ。

また、住居、自動車等購入、贈与金及び仕送り金の4項目を除いた消費支出^{注1}についてみると、平成19年7～9月期は前年同期に比べ実質1.5%の増加となっている(図2)。

注1) 住居、自動車等購入、贈与金及び仕送り金の4項目を除く消費支出の見方については、「家計調査の結果を見る際のポイント」(下記URL)No.4を参照願います。

<http://www.stat.go.jp/data/kakei/point.htm>

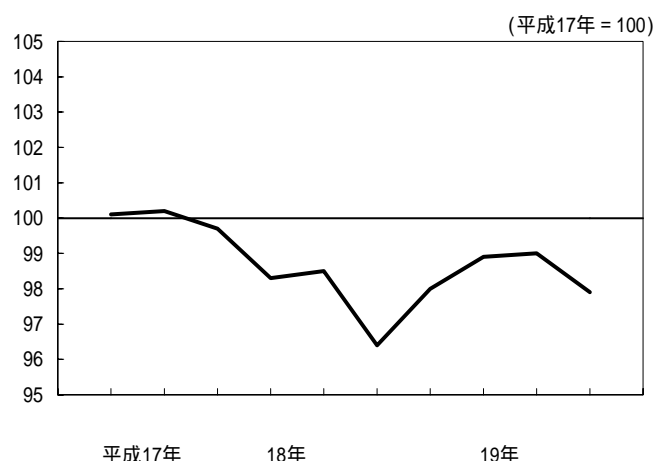
図2 消費支出の対前年同期実質増減率の推移



*: 「住居」及び「自動車等購入」のほか、「贈与金」及び「仕送り金」を除く。

さらに季節調整済実質指数で消費支出の足元の動きをみると、平成19年7～9月期は前期に比べ実質1.1%の減少となっている(図3)。

図3 消費支出(季節調整済実質指数)の推移

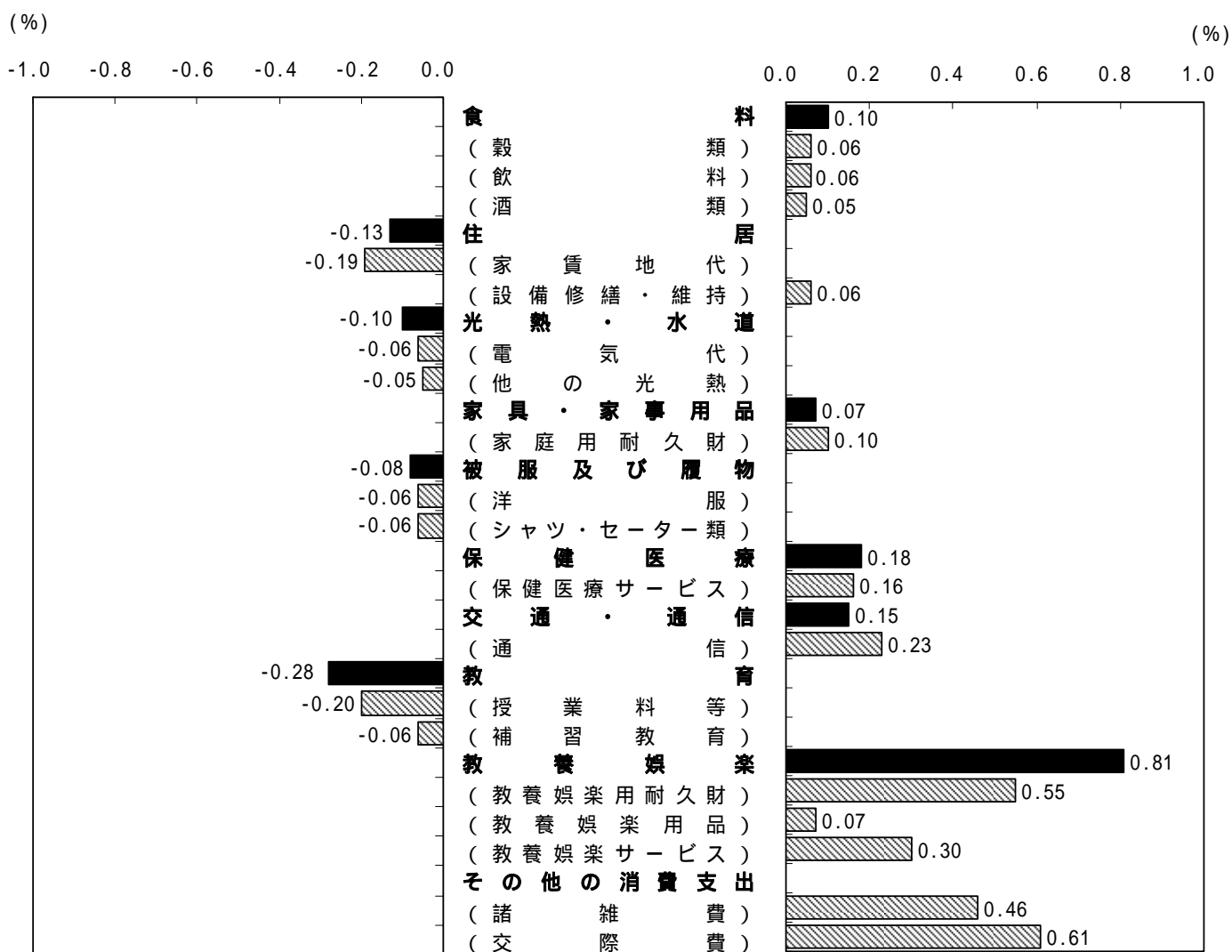


2 教養娯楽、保健医療などが実質増加に寄与
 平成19年7～9月期の消費支出の対前年同期実質増減率に対する寄与度(%)を費目別にみると、パーソナルコンピュータやテレビなどの教養娯楽用耐久財(+0.55)、外国パック旅行費などの教養娯楽サービス(+0.30)、テレビゲームなどの教養娯楽用品(+0.07)を含む教養娯楽(+0.81)が消費支出の増加に大きく寄与した。また、保健医療サービス(+0.16)を含む保健医療(+0.18)や移動電

話通話料などの通信(+0.23)を含む交通・通信(+0.15)、食料(+0.10)、電気冷蔵庫などの家庭用耐久財(+0.10)を含む家具・家事用品(+0.07)も増加に寄与した。

一方、教育(-0.28)、住居(-0.13)、光熱・水道(-0.10)、被服及び履物(-0.08)は消費支出の減少に寄与した(図4)。

図4 消費支出の対前年同期実質増減率に対する費目別寄与度



(注) 1. 平成19年7～9月期
 2. グラフ中の黒棒の部分は10大費目を表す。なお、「その他の消費支出」は実質化できないため数字は掲載していない。

最近の家計収支の特徴

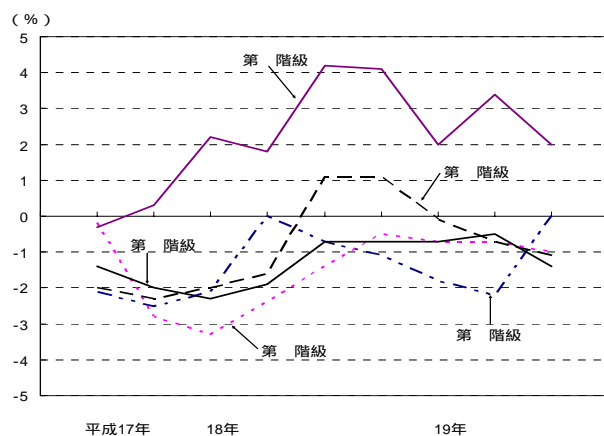
1 年間収入は第 階級の世帯で増加

年間収入^{注2}を年間収入五分位階級別に前年同期比でみると、平成19年7～9月期は年間収入の最も高い第 階級で増加している。一方、その他の階級では、第 階級は前年と同水準となっているものの、第～ 階級では減少している。

なお、第 階級は8期連続の増加となっている(図5)。

注2) 年間収入は、調査開始世帯の過去1年間(調査開始月を含む)の収入を調査したもの。調査対象世帯は、勤労者世帯だけでなく、勤労者世帯以外の法人経営者の世帯や、個人経営者世帯、無職世帯などを含む。
 なお、調査世帯は毎月、全体の6分の1ずつの入替えを行っている。

図5 年間収入五分位階級別年間収入の対前年同期名目増減率の推移



2 雇用者数が300人以上の企業で増加となった夏季賞与

勤労者世帯のうち世帯主が民間企業に勤めている世帯について、世帯主の勤め先企業規模別に平成19年6～8月期の臨時収入・賞与をみると、雇用者数300人以上の各階級では前年同期に比べ増加となっている。

一方、雇用者数1～29人及び30～299人の階級

では、それぞれ名目0.9%、1.6%の減少となっている(表1)。

表1 世帯主の勤め先企業規模別臨時収入・賞与の対前年同期名目増減率(勤労者世帯、平成19年6～8月期)

世帯主の勤め先企業規模	1～29人	30～299	300～499	500～999	1,000人以上
名目増減率(%)	-0.9	-1.6	15.7	32.3	7.5

3 増加幅が拡大した耐久財

消費支出の内訳を財・サービス区分別にみると、平成19年7～9月期は、耐久財が実質14.6%の増加と、前期に比べ増加幅が大きく拡大した。また、サービスが実質1.4%の増加、非耐久財が実質0.4%の増加となった。一方、被服及び履物などの半耐久財は実質1.2%の減少となった(表2)。

そこで、耐久財について増加幅の拡大に寄与した項目及び品目をみると以下のようにになっている。

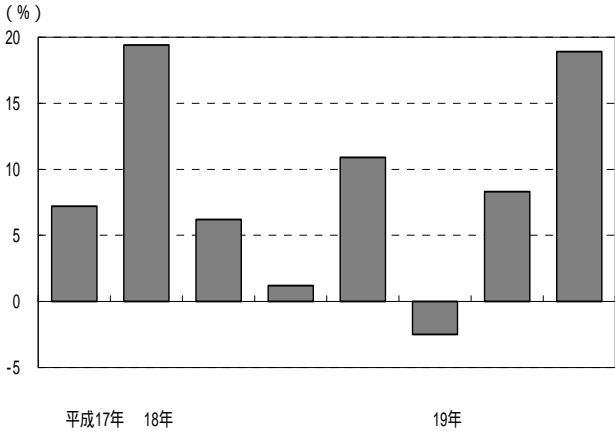
表2 財・サービス区分別支出の対前年同期実質増減率の推移

	平成17年			平成18年			平成19年		
	7～9月	10～12月	1～3月	7～9月	10～12月	1～3月	7～9月	10～12月	1～3月
財(商品)	0.4	2.6	-2.3	-2.2	-3.4	-0.9	1.6	0.3	1.5
耐久財	3.1	3.9	-9.5	-3.2	-5.6	5.6	10.5	2.9	14.6
半耐久財	0.3	5.7	-5.3	-4.5	-2.0	-2.7	5.7	2.9	-1.2
非耐久財	0.1	1.8	-0.3	-1.6	-3.3	-1.3	-0.6	-0.5	0.4
サービス	2.7	-0.3	-1.6	-1.1	-3.8	-0.7	3.2	3.4	1.4

(1) 家事用耐久財及び教養娯楽用耐久財の動き

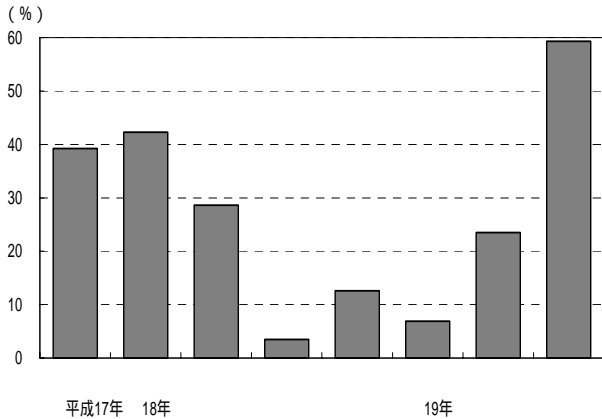
電気冷蔵庫などの家事用耐久財の動きをみると、平成17年7～9月期以降、対前年同期比で6期連続して実質増加となった。その後、19年1～3月期は減少となったが、4～6月期は実質8.3%増と再び増加し、7～9月期は実質18.9%増と増加幅が前期に比べ拡大している(図6)。

図6 家事用耐久財の対前年同期実質増減率の推移



また、パーソナルコンピュータやテレビなどの教養娯楽用耐久財の動きをみると、対前年同期比で平成15年4～6月期以降、18期連続の実質増加となっている。19年7～9月期は実質59.3%の増加と、増加幅が4～6月期(実質23.5%増)に比べ拡大した(図7)。

図7 教養娯楽用耐久財の対前年同期実質増減率の推移



(2) 耐久財の中の主な品目の動き

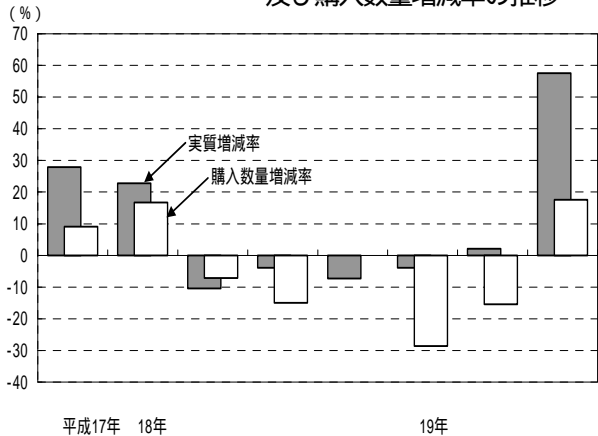
電気冷蔵庫

平成19年7～9月期は対前年同期比で実質57.6%の増加となった。実質増減率の内訳を数量の変化と質の変化に区別^{注3}してみると、19年

7～9月期の購入数量は前年同期に比べ17.6%の増加であったことから、猛暑の影響で購入量が増えたほか、より高品質(大容量、高性能)な機種種の購入が増えたことにより増加幅が拡大したとみられる(図8)。

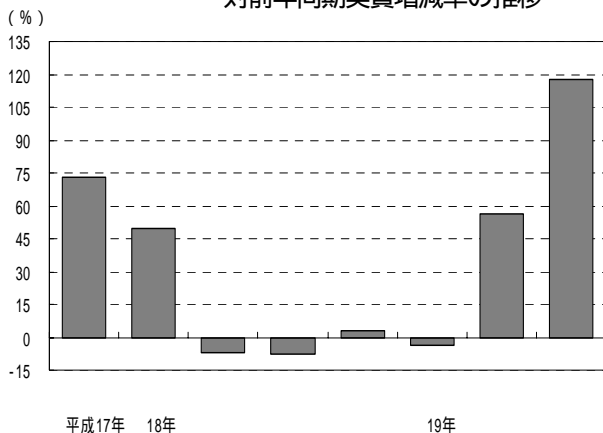
注3) 実質増減率の変化は、購入数量の変化と購入した商品の質の変化からなる。そのため、実質増減率が購入数量の変化率を上回った場合、その差分は購入した商品の品質向上分と捉えることができる。

図8 電気冷蔵庫購入の対前年同期実質増減率及び購入数量増減率の推移



パーソナルコンピュータ
平成19年1月に、最も普及している基本ソフトの新バージョンが約5年2か月ぶりに発売されることとなっていたため、18年4～6月期以降、買い控えの傾向がみられた。当該ソフトが発売された19年1～3月期は対前年同期比で実質減少であったが、4～6月期は実質56.6%の増加となり、7～9月期は実質117.9%の大幅な増加となった(図9)。

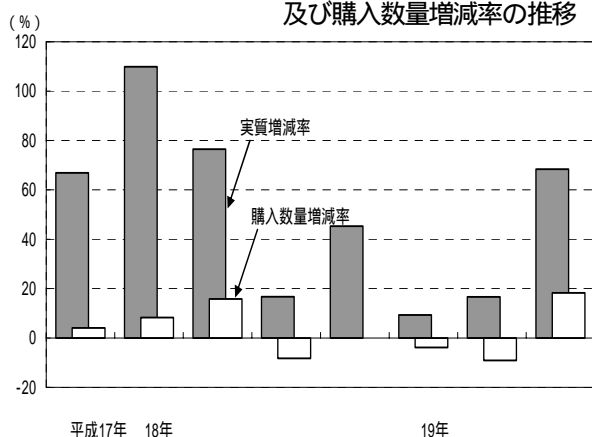
図9 パーソナルコンピュータ購入の
対前年同期実質増減率の推移



テレビ

薄型テレビの販売が引き続き好調なことなどもあり、平成19年7～9月期は対前年同期比で実質68.4%増と、18期連続の実質増加となっている。電気冷蔵庫と同様に、実質増減率の増加幅に比べ購入数量の伸びが小さいことから、フルスペックハイビジョンテレビなど、より高性能な機種を購入が増えたとみられる(図10)。

図10 テレビ購入の対前年同期実質増減率
及び購入数量増減率の推移



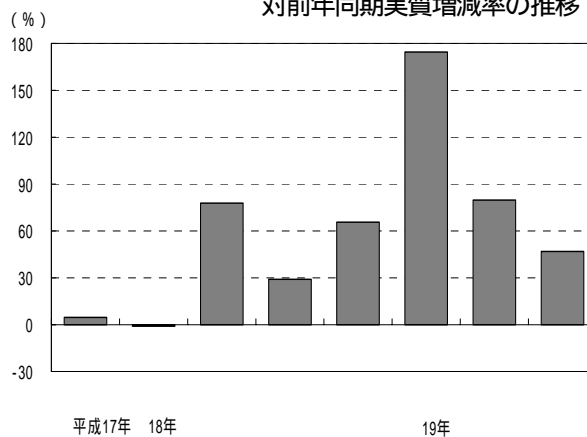
4 その他注目される品目の動き

(1) テレビゲーム

平成18年3月に発売された携帯型の製品や、18年12月に発売された据え置き型の製品の販売が

引き続き好調なことなどもあり、19年7～9月期は対前年同期比で実質47.2%増と、18年4～6月期以降6期連続して実質増加となっている。ただし、増加幅は19年4～6月期以降、2期連続して前期に比べ縮小している(図11)。

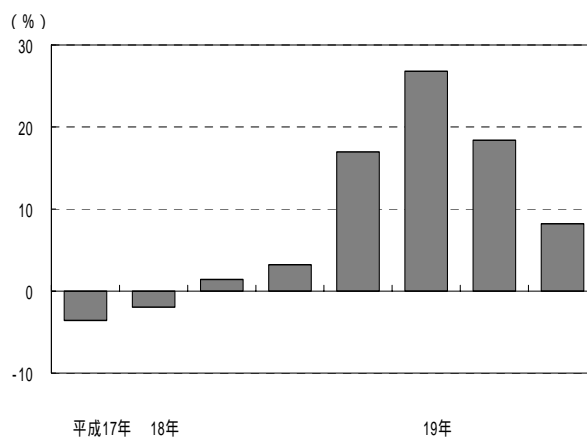
図11 テレビゲーム購入の
対前年同期実質増減率の推移



(2) ペットフード

近年のペットブームに伴い、平成19年7～9月期は対前年同期比で実質8.2%増と、18年4～6月期以降、6期連続の実質増加となっている。ただし、増加幅は19年4～6月期以降、2期連続して前期に比べ縮小している(図12)。

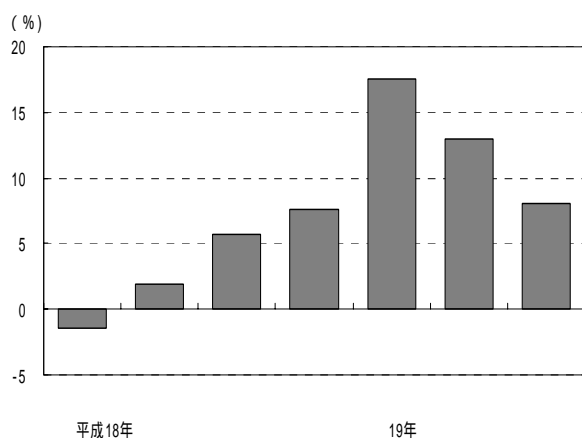
図12 ペットフード購入の
対前年同期実質増減率の推移



(3) 非貯蓄型保険料

掛け捨て型医療保険などの販売が堅調なこともあり、平成19年7～9月期は対前年同期比で実質7.1%増と、18年4～6月期以降、6期連続して実質増加となっている。ただし、増加幅は19年4～6月期以降、2期連続して前期に比べ縮小している(図13)。

図13 非貯蓄型保険料の対前年同期実質増減率の推移



最近の家計をめぐる事象

1 長梅雨、猛暑及び記録的な残暑の影響

関東地方などでは、梅雨明けが平年よりも大幅に遅れ、8月にずれ込んだ。しかし、それ以降は全国的に厳しい暑さに見舞われた^{注4}。また、残暑も記録的なものとなり、9月の気温も全国的に平年に比べ高い状況が続いた。

そこで、この暑さが支出の増減に影響を与えたとみられる主な品目等について、7～9月期の動きをみると次のようになっている(表3)。

注4) 埼玉県熊谷市と岐阜県多治見市では8月16日に40.9度を記録し、74年ぶりに国内最高気温を更新するなどの酷暑となった。

表3 猛暑及び記録的な残暑により影響を受けた主な品目等の実質増減率

	7月	8月	9月	7～9月期
食料				
アイスクリーム・シャーベット	-6.4	8.0	20.3	5.9
飲料	-1.8	5.7	7.7	3.8
ビール	-0.9	13.6	24.5	10.4
光熱・水道				
ガス代	-0.3	-4.0	-2.8	-2.3
灯油	-19.3	-29.1	-28.7	-25.2
家具・家事用品				
エアコンディショナ	-28.6	45.0	61.3	6.3
タオル	-7.1	56.2	24.1	23.3
教養娯楽				
スポーツ用品	-2.5	15.2	-5.9	1.1
その他の消費支出				
化粧クリーム	-8.7	19.2	-8.2	0.6

(注) 1. スポーツ用品は水着を含む。
2. 化粧クリームは日焼け止めクリームを含む。

(1) アイスクリーム・シャーベット

平成19年7月は、対前年同月比で実質6.4%の減少であったのに対し、8月及び9月は実質増加となり、7～9月期で見ると、対前年同期比で5.9%の実質増加となった。

(2) 飲料

平成19年7月は、対前年同月比で実質1.8%の減少であったのに対し、8月及び9月は実質増加となり、7～9月期で見ると、対前年同期比で3.8%の実質増加となった。

(3) ビール

平成19年7月は、対前年同月比で実質0.9%の減少であったのに対し、8月及び9月は大幅な実質増加となり、7～9月期で見ると、対前年同期比で10.4%の実質増加となった。

(4) エアコンディショナ

平成19年7月は、対前年同月比で実質28.6%の減少であったのに対し、8月及び9月は大幅な実

質増加となり、7～9月期でみると、対前年同期比で6.3%の実質増加となった。

(5) その他の品目

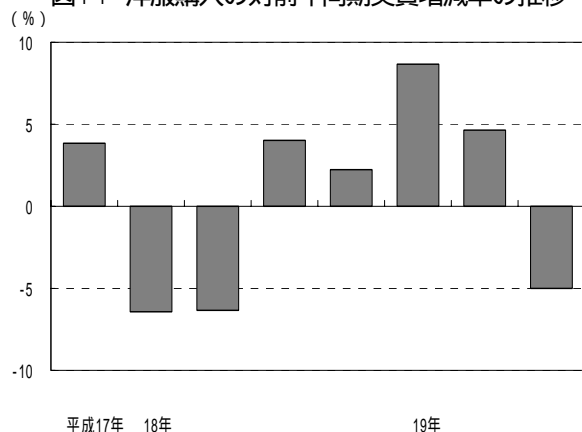
タオル、スポーツ用品及び日焼け止めクリームなどの化粧クリームについては、平成19年7～9月期は対前年同期比で実質増加となった。一方、ガス代及び灯油は平成19年7～9月期は対前年同期比で実質減少となった。

2 その他の家計をめぐる事象

・ 洋服

平成19年7～9月期は対前年同期比で実質5.0%減と、18年4～6月期以来5期ぶりの実質減少となった。これは、例年7月始めから行われる夏のバーゲンが今年は6月末から前倒して実施されたこと、また、9月は残暑による影響で秋物衣料の販売が不振だったことによるとみられる(図14)。

図14 洋服購入の対前年同期実質増減率の推移

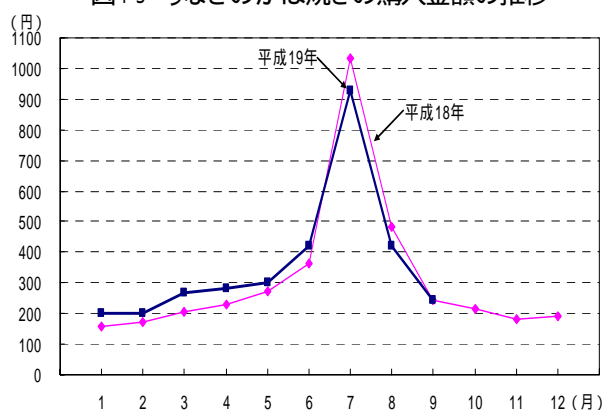


・ うなぎのかば焼き

7月に中国の一部の加工食品から基準値を超える有害物質や菌類が検出されたとして、中国が日本向け食品の一部輸出停止措置を取った。これにより、中国産食品への不信感から、一部のスーパーなどで中国産うなぎのかば焼きの売上げが減少した。

土用の丑の日がある7月は、うなぎのかば焼きの購入が1年で最も多いが、19年7月の購入額は、前年同月に比べ名目10.1%、実質12.0%の減少となった(図15)。

図15 うなぎのかば焼きの購入金額の推移



・ 新潟県中越沖地震

7月16日午前10時ごろ、新潟県中越沖を震源とする強い地震があり、柏崎市、長岡市、刈羽村、長野県飯綱町で震度6強を観測した。倒壊家屋の下敷きなどで死傷者が発生した。また、これにより東京電力の柏崎刈羽原子力発電所は緊急停止した。電力不足を懸念した東京電力は関東地方の消費者や企業等に節電を呼びかけた。

・ 相次ぐ食品偽装問題

製菓会社や食品加工会社などによる、賞味期限改ざんなどの不祥事が相次いで発覚し、消費者の食品衛生に対する不安が広がった。

(平成19年11月30日 作成)